

12月定例会号

目次

- ・特集 未来のスター！
～女子サッカーの新たな一歩～ …… P2
- ・12月定例会の概要 …… P4
- ・採決状況 …… P5
- ・一般質問 …… P6
- ・委員会審査の概要 …… P10
- ・市議会からのお知らせ …… P12

わかやま 市議会 だより

No.116 令和7年(2025年)2月1日発行

FC JUNRELO VIVO GIRLS



夢の聖地へキックオフ



特集vol.28

未来のスター

女子サッカーの新たな一歩

夢の聖地が続く路！市内初の
女子中学生サッカークラブチーム

令和5年夏、和歌山市内初の女子中学生サッカークラブチーム「FC JUNRELO VIVO GIRLS」が、設立に向け始動しました。

JUNRELO（ジュンレロ）の由来は、和歌山県が誇る世界遺産・熊野古道の「巡礼路」。選手にとっての修験道、夢の聖地が続く路でありたいと希望が込められています。

現在6人のメンバーで、練習や試合といった活動を行っています。令和7年には本格的に始動するため、メンバーを募集中とのことです。

女子チーム立ち上げ以前の平成29年に、代表の小坂さん、総監督の松尾さんを中心に、U-12のジュニアチーム「FC JUNRELO」が設立され、翌年にはU-15のジュニアユースチームが立ち上げられました。

活動を続ける中、ジュニアチームで男子とともにサッカーをする女子選

女子スポーツ選手の中には、技術や情熱があっても、続けられる環境がなく諦めてしまう選手がいます。

和歌山市の女子サッカーでも、有望な選手が、より環境が整っている県外の強豪チームへ流出してしまうという課題があります。

今回は、ふるさと和歌山で夢を追い続けられるよう活動されている女子中学生サッカークラブチーム取材しました。



手が増えていきましたが、女子だけのチームが市内にないことから、中学生になるとサッカーを辞めて他のスポーツへ移ってしまったり、続けるために県外のチームへ移る選手が多くなってきました。

監督やコーチを含めたスタッフは、ジュニアチームで大切な女子選手を預かる中で、この状況をなんとかしたいという思いをずっと抱えられていたといいます。

そして、令和5年、活動に区切りをつけた他チームの思いを受け継いだ「FC JUNRELO VIVO」として再出発したことを機に、女子選手の受け皿となるチームを作ることと決意しました。

監督には、なでしこリーグで活躍した経験がある和歌山市出身の女性を選出。また、他の少年チームで同じ思いを持つ女子選手やその指導者に声を掛けたり、選手自身で友達に呼び掛けるなどしてメンバーを集め、ようやくチームとして活動を開始することができたそうです。

選手それぞれの思い

6人のメンバーの中には、中学生だけではなく、小学5年生・6年生の選手もいます。今は人数が少ないため、中学生クラブチームと一緒に活動されているそうです。

また、取材当日は、関西大会出場に向け、他チームから参加していた女子選手たちにも、お話を聞くことができました。

彼女たちがサッカーを始めたきっかけは、家族や友達がしていたこと。

女子チームができるまでは、男子に交じり一人で練習したり、体のぶつかり合いで男子に勝てなかったりといった苦労もあったそうです。

それでも、男子に交じってレギュラーをつかみ取ったことを、はにかみながらうれしそうに教えてくれる選手もいました。

このように男子にも引けを取らない選手たちですが、女子チームができたことで「女子で試合に出ることが楽しみ」「進路の悩みがなくなった」「もっと早くできてほしかった」と笑顔で話してくれました。

次世代へつながる愛されるチームへ

令和7年4月の本格始動を前に、スタッフの皆さんは、様々な夢やアイデアを持たれており「地域の二員として、愛され応援されるチームづくりをしたい」「たくさんの人に出会い、経験をすることで、人として魅力のある人になってほしい」と選手やチームのこれからのについて、熱く語られていたことが印象的でした。

また、選手たちは、サッカーを通じて「仲間と協力すること」「最後まで諦めずに頑張ること」などを学

んだと教えてくれました。

技術だけではなく、人としても成長してほしいと願うスタッフの思いが、選手たちに伝わり、受け継がれることで、今後の飛躍が大いに期待できるものと感じました。

市議会では、平成27年にスポーツ振興議員連盟（現スポーツ振興・全国大会誘致和歌山市議会議員連盟）を設立し、子供たちがプロ選手と触れ合う機会を提供するなど、夢の後押しもしています。今後も、性別や年代に関係なくスポーツができる環境づくりに取り組み、スポーツを通じた学びや成長を全力で応援します。



エフシー ジュンレーロ ヴィーヴォ ガールズ

FC JUNRELO VIVO GIRLS

和歌山市で活動する、女子中学生サッカークラブチーム。取材時は、選手のうち2人がお休みでしたが、メンバーは全員で6人。夢に向かって日々練習に励んでいます。

小坂亮輔代表をはじめ、Jリーグで活躍された松尾直人総監督、なでしこリーグ2部で活躍された英美佐監督、また、西原潤コーチ、吉田佳弘テクニカルアドバイザーなど、多くのスタッフが選手の活動を支えています。

チームでは、令和7年4月の本格始動に向けてメンバーを募集中で、初心者も歓迎とのこと。詳細はこちら→



編集後記



取材当日は、話を聞くだけではなく練習も見学させていただきましたが、そのレベルの高さに驚くとともに、FC JUNRELO VIVO GIRLSの活躍が楽しみになりました。和歌山市でも継続してサッカーができる環境ができたことで、近い将来、このチームから巣立った選手たちが、なでしこジャパンの一員として世界で活躍されることを楽しみにしています。

特集担当：堀 良子、清末 博善、林元 光広

12月定例会の概要

開会

12月5日

- ・会期の決定(12月5日～12月20日)
- ・議案説明(報告関係9件、承認関係1件、議案17件(補正予算案3件、条例案3件、その他11件))

- ・決算関係の議案(令和6年9月定例市議会議案)
- ・決算特別委員会の委員長報告
- ・反対討論(南畑議員)、採決

一般質問等

12月9日

- ・林元光広議員、木野十三議員、志賀弘明議員、森下佐知子議員

12月10日

- ・追加議案の説明(補正予算案4件、条例案4件)
- ・永野裕久議員、坂口多美子議員、山本忠相議員

12月11日

- ・藪 浩昭議員、南畑幸代議員、芝本和己議員(P6～P9に概要掲載)
- ・議案等の委員会付託

常任委員会

12月12日～17日

- ・総務委員会、厚生委員会、経済文教委員会、建設企業委員会で議案について審査

12月18日

- ・各常任委員会で議案について、討論及び採決並びに請願の審査(P10～P11に概要掲載)

12月20日

- ・厚生委員会で報告事項について審査

閉会

12月20日

- ・各常任委員会の委員長報告
- ・反対討論(森下議員、山野議員)、採決
- ・請願(1件)、採決
- ・追加議案の説明(人事案件5件)、採決

令和6年度予算(12月補正後)

一般会計	1,565億800万3千円 (補正額4億4,433万7千円)
特別会計及び公営企業会計	1,377億2,130万8千円 (補正額2,979万3千円)
合計	2,942億2,931万1千円

補正予算の概要

一般会計では、観光誘客促進補助事業、産地育成事業、小学校等給食費無償化事業、和歌山電鐵運行継続支援事業、街路事業、地方道整備事業、母子保健事業、介護施設防災改修等支援事業、道路災害復旧事業などに要する経費が計上されました。

特別会計では、駐車場管理事業特別会計で、中央駐車場などの指定管理業務委託に要する経費などが計上されました。

これらの補正予算案は慎重審査の結果、可決されました。

和歌山市議会災害等訓練を実施しました!

令和6年12月6日、和歌山市議会災害等訓練を実施しました。

これは、大規模な感染症が発生した場合でも、議会運営を停滞なく進め、議会の機能維持を図れるよう、和歌山市議会緊急時業務継続計画(BCP)に基づいて実施したものです。

今回の訓練は、全国各地で新型コロナウイルス感染症の感染者が発生していることを想定し、和歌山市新型コロナウイルス感染症対策本部から報告を受けた丹羽議長がBCPを発動し、議会運営や常任委員会の開催方法等について、オンライン会議を活用して、各会派の代表者及び各常任委員会委員長と協議を行いました。



オンラインでの訓練の様子



市議会PR動画できました!

本市議会の主権者教育の取組をラップで紹介しています!ぜひチェックしてみてください!



ピックアップ! 一般質問

一般質問の概要では、多数ある質問項目の中から、特に市民の皆様へお届けする内容をピックアップした上で掲載しています。



録画中継をご覧いただけます。

※各会派のスペースは、会派の所属議員数によりその大きさが異なります。

創和クラブ



はやしもと みつひろ
林元 光広

自治会回覧板の電子化

問 多くの自治会が、地域の情報伝達手段として回覧板を活用している。しかし、紙ベースの回覧板は、紛失や回し忘れ、高齢者や忙しい世代への負担などの課題もあり、回覧板の電子化を検討してはどうかと考える。

紙ベースの回覧板に伴う課題をどのように認識しているか。また、電子化推進

の計画はあるか。さらに自治会との連携についてどう考えるか。加えて、デジタルに不慣れな方々へのサポートについて、どのような取組が考えられるか。

答 紙ベースの課題として情報伝達に時間が掛かる、手元に情報が残らない、紙と印刷のコストや配布に伴う事務負担などがあると認識している。回覧板電子化を推進する計画はないが、自治会の要望に応じ、データ提供などの連携を図っていきたいと考える。また、要望に応じて、デジタルツール活用方法の講座を行うなど情報提供に努めていく。

市営住宅申込時の保証人

問 引き続き連帯保証人を求める方針なのか、他市のように緊急連絡人でよとするのか。

答 緊急連絡人制度等への移行に向け、その役割や必要事項の整理を進めていきたいと考える。

予防接種健康被害救済制度

問 市を信じてこのまちに暮らす市民に対し、今後、

新型のワクチンを接種する際は、メリットとデメリットを分かりやすく情報提供すべきである。

新型コロナワクチン接種による予防接種健康被害救済制度の認定者数が増加していることを市長はどう捉え対応するのか。市として国の制度を補完する経済的支援を行う可能性はどうか。

65歳以上の方に約2億回ワクチン接種した場合の死亡認定数の比較
※予防接種健康被害救済制度

	死亡認定数	接種回数	期間	2億回換算死亡認定数
ファイザー	4名	179,221,430回	2012～2021年度	4.46名
モデルナ	664名	193,362,873回	2021年4月～2024年3月19日	686.79名
	166倍			約154倍

引用：藤江成光氏「X」投稿 https://x.com/JINKOUZOUKA_jp/status/1861840453026587009

答 本市の同制度の現状は令和6年11月末現在、申請件数が38件、うち認定が25件、否認が3件である。新たに申請される方はもとより認定された方も医療費や医療手当の申請は続いているため引き続き対象者に寄り添った対応を行っていく。また、今後対象となる方に対して寄り添った支援策を

検討していきたいと考える。



しが ひろあき
志賀 弘明

市長就任以来の市政運営

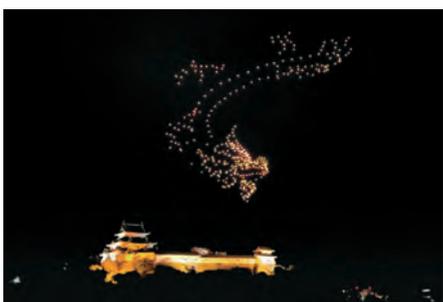
問 令和4年8月の市長選で3選された後、初めての9月議会での所信表明では、「誰もが安心して暮らせる優しいまち」「子供たちがいきいきと育つまち」「ふるさとで学び働けるまち」「県都として活力にあふれたまち」の4つのまちの将来像に触れられている。

市長就任以来10年間の自己評価はどうか。また市民にどのようなメッセージを伝えたいか。

答 子育てや福祉予算を大幅に増加させ、にぎわいを生み出すまちづくりを進めるなどしてきた。新たな産業や教育機関などの誘致を行うとともに、これまで築き上げた人的ネットワークなどで、誘致を実現するため、全身全霊で取り組んでいく。

ドローンショー

問 今年もけやきライトパレードが令和6年11月23日から始まり、翌24日には和歌山城公園内でドローンショーや「和歌山城の光の回廊」も開催され、城内及び周辺に大勢の方々が集まった。フェスタルーチェと共に本市の冬の風物詩になることを期待している。



ドローンショー

答 和歌山城公園ライトアップ業務の受託者と竜王戦並びにライトアップ開始を盛り上げるために何かできないか協議する中で、市長から提案し、相手方の賛同と協力により実現に至った。想像を大きく超える多く

の方々にお越しいただき、目的としていた和歌山城公園ライトアップのPRに大きく貢献したものと考える。

観光発信人の活用

問 シビックプライドの醸成や和歌山市ファンの増加の一翼を担うのが観光発信人であると考えるが、どのような活動をしているのか。

答 本市にゆかりがあり各界で影響力を持つ方々を委嘱しており、SNSなどでの情報発信や本市以外でのイベントで本市を紹介するなど自発的にPRしてくれている。本市からは随時、発信力を最大限発揮していただけるよう依頼している。



しばもと かずき
芝本 和己

ごみ処理施設の今後

問 青岸エネルギーセンターに代わる新しいごみ処理施設は、概算事業費約611億円を見込んでおり、施設単体で見ると市として過去最大の投資となる。建設費

用の大きさを考えると、計画ありきで拙速に進めることなく緻密に調査し検討することが不可欠である。

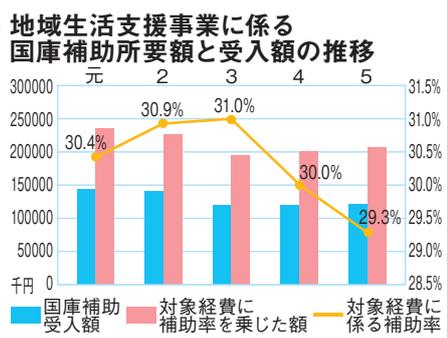
答 建設予定地までのインフラを含む整備や運営に係るキャッシュフローが示されていない中、全体的な判断はできないのではないかと。また、概算事業費はどのように設定されたのか。

答 キャッシュフローは、今後の各種調査業務や基本設計等の中で精査していく。概算事業費は、当該基本計画策定業務の受注者に技術士や施設整備計画の業務経験者を配置させ、試算した。見積等を依頼した結果、最高値を除く3者平均値の611億円と設定された。

厚生労働省所管の補助金

問 地域生活支援事業は障害者にとって欠かせないもので、その多くは国の必須事業である。国の補助率は本来50%との説明だが、令和5年度は29.3%であり、年間必要経費約4億1000万円のうち8000万円は市の一般財源から捻出している。現状への市の対応と国

の見解はどうか。また、市長は現状をどう考えるか。



答 必要対象経費を申請しているが、国費は厚生労働大臣が必要と認めた基準額の2分の1の補助となっており本市の負担が続いている。国へ要望しているが、「引き続き予算確保に向け努力する」との返事である。基準額を対象経費と同額と取り扱うよう働き掛ける。

水道事業の広域化

問 広域連携の深化は本市の水道事業持続にとって有意義である。本市にとってのメリットを「作る」「確認する」ためのシミュレーションを、県と二緒に作成すべきだと考えるがどうか。

答 県が各市町村の実情に応

じた広域化推進プランを作成できるよう、協議を行った。各市町村が協議した結果、シミュレーションの部分的作成は協力依頼があった際は応じていきたい。

公明党議員団



きの じゅうぞう
木野 十三

7・9和歌山大空襲の記憶継承

問 第二次世界大戦で本市の被害が最も大きかった7月9日の和歌山大空襲の記憶を継承しなければいけないと考える。その日に、市民が黙とうを行うような取組をしてはどうか。

答 令和7年は戦後80年の節目であり、黙とうへの協力を市報やSNS等を通じて啓発していく。

まちづくり

問 半年限定開催の市堀川夜市を毎年開催するとともに、築地浜通りや旧帝国座

西の雑賀橋両サイドのかわまちづくりの実現を強く要望するがどうか。



雑賀橋



市堀川夜市

答 夜市の通年開催に向け、事業者と調整を進めているところである。また、今後雑賀橋周辺のにぎわい創出に向けた取組を進めていく。

問 和歌の浦の奠供山に設置されていた日本初の鉄骨式屋外型で東洋一の高さであったエレベーターについて、あしべ庵敷地内に案内板を設置するなど、もっと情報発信をしてはどうか。

答 現在、古写真を展示し情報を発信している。今後とも歴史文化の情報を発信するとともに、案内板の設置についても検討していく。

宿泊税の導入

問 宿泊税導入には、決めた目的に対し自治体が自由に使い、また、基本的に本市以外の方から徴収するため、市民に負担をかけないというメリットがある。デメリットはほぼないと感じており、本市でも導入すべきと考えるがどうか。

答 令和元年度に研究に着手したが、新型コロナウイルスの影響で中断している。県や他の自治体の動向を注視しつつ、導入の必要性を含め研究を再開していく。



やぶ ひろあき
荻 浩昭

福祉行政

問 精神障害者保健福祉手帳2級の保持者は、重度心身障害児者医療費助成の対象外であるため、医療費負担が大変である。これまで、2級の方を助成の対象にするよう何度も訴えてきたが、その後、どのように研究し、課題解決に取り組んだのか。

答 県内市町村などで情報収集を行った結果、精神障

害者の方は、雇用の不安定さや収入の低さがうかがえることなどが分かってきた。

助成対象の拡充について、岩出市と紀の川市の3市共同要望を県知事に行ったところであり、引き続き、県に要望を行っていく。

問 高齢者の健康を守る観点から、带状疱疹ワクチン接種と助成の必要性を以前から本会議や委員会などで訴えてきた。結果、本市は令和6年4月から任意接種での助成を始めた。厚生労働省は、令和7年度からB類疾病での定期接種化の予定を示しているが、対象年齢、助成費等はどう検討しているか。

答 現時点では方針が示されたのみであり、引き続き国の動向を注視し対応していきたいと考える。

友好都市

問 本市は、東京都北区と災害時における相互応援協定を締結したが、北区との関係は、約800年前からつながりがあり、飛鳥山に桜を植えた徳川吉宗公や、陸奥宗光伯と渋沢栄一翁と

の親交など、歴史的文化的にもつながっている。今後、子供たちとの相互交流や文化・観光等、歴史的意義も踏まえて友好都市などの協定を締結すべきと考えるがどうか。



飛鳥山公園(東京都北区提供)

答 今後、連携協定の締結を見据え様々な連携を積み重ね、相互の理解と信頼を深めていきたいと考える。

民主クラブ



やまもと ただすけ
山本 忠相

まちづくりと公共交通

問 和歌山バスの雑賀崎循

環線・六十谷線・鳴神線の3路線について昨年末廃止が表明された。これは単にバス路線の廃止問題ではなく、人が暮らすまちの価値を下げてしまいかどうか、住む人や訪れる人の移動権及び交通権を確保できるかどうかの重大な問題である。



和歌山バス

自動運転バスの実証実験以外に目新しい地域公共交通の維持に向けた取組は少なく、少しでも乗車してもらえるよう研究し工夫するのが行政の使命であるにも関わらず、その覚悟が感じられない。令和6年2月議会「守りから攻めへのスタートダッシュを切り、誰もが便利で安心安全、快適に移動できるまちづくりを進める」との答弁を得たが、その

市長の思いが当局に伝わっていないのではないか。

住民に乗車してもらうための答えは、住民の中にしかない。よって、沿線住民全体にアンケートを行うなど、徹底して住民の考えを聞き、答えを探し出す必要があると考えるがどうか。

答 3路線の沿線自治会を対象に意見交換等を行ったが、全ての住民の声を聞いたとは考えていない。今後は、沿線住民へのアンケートを実施するなど、幅広く意見収集を行うよう検討していく。

問 宮前地区の交通空白地域は、市の定義する公共交通不便地域に該当しないが、高齢者も多く住んでおり、実情に合っていない。住民と話し合い、どうすれば住民の移動を一定充足させるのか答えを導き出すのは、行政の仕事ではないか。

答 本市では、鉄道駅から1km、バス停から500m以上離れた地域を公共交通不便地域と定義し対策を進めているが、その距離を歩めることが困難な方もいると思われることから、地域住民と話し合い、実態や二一

ズを把握することは必要であると考えている。

問 廃止対象とされた3路線及び宮前地区の交通空白地域で住民の意見を聞き、実態把握を早急に実施するべきと考えるがどうか。

答 3路線については、交通関連事業者とも連携し実態把握に努めていく。宮前地区については、公共交通不便地域には該当しないが、地域住民の意見を聞き、実態やニーズを把握することは必要であると考えている。

和歌山興志クラブ



ながの ひろひさ
永野 裕久

医療・健康行政

問 带状疱疹予防接種の公費助成を導入している自治体のうち、95.6%の自治体が50歳以上を対象にしているが、本市では、現在満65歳と満70歳の方のみとなっているため、対象年齢を緩和してはどうか。

答 厚生科学審議会の報告や他自治体の動向も見ながら、更なる発症予防や重症化予防のため、対象年齢の拡充について検討していく。

問 不活化ワクチンは、生ワクチンに比べ発症予防効果や持続性などがより有効だが、2回接種が必要であり、2回目も公費助成の対象にするべきではないか。

また1回当たりの接種費用が約2万4千円で、生ワクチンの約8千500円に比べ高額であることから、現在の4千円の助成金額に上乗せしてはどうか。

答 現在1回分のみ対象であるが、今後接種率の推移を見ながら、接種回数に応じた公費助成の実現や、助成額の増額を検討していく。

教育行政

問 自転車通学が許されている市立中学校11校中、校則により学校指定のヘルメットのみの着用を義務付けている6校について、生徒自身がかぶりたいと思う市販のヘルメット着用を認めることで、着用率が高くなると考えるため、教育委員会か

ら通達を出し、自由化を促すべきと考えるがどうか。



答 文部科学省の通知により、校則が児童生徒の実情や時代の進展などを踏まえたものになっているか、絶えず積極的に見直すよう指示しており、ヘルメットについても、生徒や保護者から意見を聴取するなどして、必要に応じて校則を見直すよう各学校に指示していく。

日本共産党議員団



もりした さちこ
森下 佐知子

ごみ処理施設整備基本計画

問 計画に関わる事業費用、場所、規模など地域住民への説明会を開き、広く意見を聞くべきだと思いがどうか。

答 計画案のパブリックコメントの実施、近隣地区の各連合自治会長への概要説明など、丁寧な説明を行い、皆様の御意見を伺いながら事業を進めていく。



さかくち たみこ
坂口 多美子

市街化区域の農業振興

問 生産緑地は農地を守る重要な制度だが、市は年齢や面積で独自規制している。締め付けでなく営農しやすい制度にする必要があると思いが、市街化区域の農業振興を市長はどう考えるか。

答 優先的かつ計画的に市街化を図るべき区域であり耕作放棄等、課題もあることから慎重に対応する。

ごみ減量施策



みなみはた さちよ
南 畑 幸代

問 市は粗大ごみ有料化の議論を始めたが、他市は再利用し減量施策を実施している。市も減量施策に取り組むべきと考えるがどうか。

答 他市を参考に、まだ使用できる不用品はごみとせず、リユースの推進に有効な施策を取り入れていきたいと考えている。

声の市議会だより

(市議会だよりの音声版)

市議会の活動をより一層知っていただくために、声の市議会だより(市議会だよりの音声版)を作成しています。

ご希望の方は、議会事務局 秘書広報課
☎435-1120 までご連絡ください。

次の定例会は、2月です!



委員会審査の概要

総務委員会

当委員会に付託された承認案件1件及び議案10件について、慎重審査の結果、承認及び可決すべきものと議決されました。なお、議案の主なものについては、次のとおりです。

承第1号、市長専決処分事項の承認を求めるについて。これは、令和6年10月27日執行の衆議院議員総選挙及び最高裁判所裁判官国民審査に係る予算について、地方自治法第179条第1項の規定に基づき令和6年10月2日付けで市長専決処分したものを、同条第3項の規定により議会へ報告し、承認を求めるものです。



議案第14号、和歌山地方税回収機構規約の変更について。これは、森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律の施行に伴い、令和6年度より個人住民税均等割と併せて森林環境税を市町村が賦課徴収

することとなったことから、和歌山地方税回収機構の共同処理する事務を変更するため、改正を行うものです。



議案第22号、和歌山市職員給与条例等の一部を改正する条例の制定について、及び議案第23号、和歌山市会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について。これは、和歌山市人事委員会が行った職員の給与等に関する報告及び勧告に基づく給料表の引上げ及び勤勉手当等の支給率の改定を行うため、所要の改正を行うものです。

なお、審査過程において、災害警戒本部の設置状況、大規模津波防災総合訓練の実施結果について、執行部からそれぞれ報告があり、これらに対し、各委員から意見、指摘及び要望がありました。

録画中継



12月12日



12月16日

厚生委員会

当委員会に付託された議案5件について、慎重審査の結果、可決すべきものと議決されました。なお、議案の主なものについては、次のとおりです。

議案第1号、令和6年度和歌山市一般会計補正予算(第6号)中、公費負担医療制度システム改修支援事業202万6千円について。これは、医療機関等が行う自立支援医療の受給者証とマイナンバーカードの一体化に向けたシステム改修に対し補助金を交付するものです。

介護施設防災改修等支援事業1601万5千円について。これは、介護施設の防災・減災対策を推進するため、ブロック塀の撤去や非常用自家発電設備の整備を行う施設に対して、補助するものです。

予防接種システム改修事業517万1千円について。これは、定期接種の対象となった5種混合ワクチン及び小児肺炎球菌ワクチン(15価)について、マイナンバー情報連携を可能とするため、予防接種に係るシステム改修を行うものです。

青岸エネルギーセンター計装システム更新事業3億5530万円について。これは、ごみ焼却プラ

ントの運転を監視、制御しているシステムについて、部品の製造終了に伴い保守が困難な見通しとなったため、システム更新を行うものです。

議案第3号、和歌山市公衆浴場法施行条例の一部を改正する条例の制定について。これは、アウトドアサウナなど浴場形態の多様化が進む昨今の時代背景を踏まえ、入浴者の衛生及び風紀に必要な措置を定めた基準を見直すため、所要の改正を行うものです。



なお、審査過程において、国民健康保険料の見直し、西防波堤埋立用地への移転に伴うインフラ整備費用の考え方、太陽光発電事業の進捗などについて、執行部からそれぞれ報告があり、これらに対し、各委員から意見、指摘及び要望がありました。

録画中継



12月13日



12月17日



委員会の模様をインターネットで配信しています！

市議会ホームページから録画中継がご覧いただけます。

経済文教委員会

当委員会に付託された議案6件について、慎重審査の結果、可決すべきものと、また、請願1件について、不採択とすべきものと議決されました。なお、議案の主なものについては、次のとおりです。

議案第1号、令和6年度和歌山市一般会計補正予算(第6号)中、観光誘客促進補助事業660万円について。これは、大阪・関西万博2025を契機とした効果的な誘客プロモーションに向け、観光コンテンツや観光情報を宿泊予約や消費拡大につなげることでできる、新たなサイトを構築するものです。



産地育成事業23万3千円について。これは、有機農業等を行う農業者団体に対して支援する環境保全型農業直接支払交付金について、県支出金の追加内示に合わせて増額補正するものです。

小学校等給食費無償化事業(県支出金)1億9785万1千円について。これは、小学校及び義務教育学校(前期課程)で実施している給食費無償化に対する県支出金の受入れを行うものです。

中学校管理事業176万1千円について。これは、令和7年度の新入生に階段昇降機の必要となる生徒の入学が見込まれるため、階段昇降車を購入するものです。

議案第15号、令和6年度和歌山市一般会計補正予算(第7号)中、西コミュニティセンター管理運営事業2億7393万4千円について。これは、西コミュニティセンターの指定管理業務委託を行うものです。

なお、審査過程において、「わかやま学生×企業 就活交流会」の開催報告について、地域活性化起業人の公募について、(仮称)梅原広場の用地確保及び活用検討について、市立幼稚園の今後の計画、在り方について、和歌山市立和歌山あけぼの中学校入学申請状況等について、中学校全員給食などについて、執行部からそれぞれ報告があり、これらに対し、各委員から意見、指摘及び要望がありました。

録画中継



12月13日



12月17日

建設企業委員会

当委員会に付託された議案8件について、慎重審査の結果、可決すべきものと議決されました。なお、議案の主なものについては、次のとおりです。

議案第1号、令和6年度和歌山市一般会計補正予算(第6号)中、地方道整備事業900万円について。これは、地方道整備事業において、国庫支出金が追加配分されため、増額補正するものです。

和歌山電鐵運行継続支援事業6484万円について。これは、利用者減少や物価高騰等の影響が続いている和歌山電鐵に対し、安全な運行継続を図るための設備修繕に係る費用について、支援を行うものです。



たま電車ミュージアム号
デザイン:水戸岡鋭治

街路事業2400万円について。これは、街路事業において、国

庫支出金が追加配分されたため、増額補正するものです。

議案第2号、令和6年度和歌山市駐車場管理事業特別会計補正予算(第1号)中、道路駐車場管理事業(城北公園地下駐車場)1億1342万5千円について。これは、城北公園地下駐車場の指定管理業務委託を行うものです。

道路駐車場管理事業(けやき大通り地下駐車場及びけやき大通り地下自転車等駐車場)3億4396万5千円について。これは、けやき大通り地下駐車場及びけやき大通り地下自転車等駐車場の指定管理業務委託を行うものです。

議案第15号、令和6年度和歌山市一般会計補正予算(第7号)中、道路災害復旧事業2391万5千円について。これは、市道加太102号線災害復旧工事において、施工工法の一部が特許登録されていることが判明したため、増額補正するものです。

なお、審査過程において、(仮称)梅原広場の用地確保及びアクセス道路の協定書締結などについて、執行部からそれぞれ報告があり、これらに対し、各委員から意見、指摘及び要望がありました。

録画中継



12月12日



12月16日

台湾・高雄市訪日団が表敬訪問に来られました!

令和6年11月13日、和歌山市と高雄市の交流促進に関する覚書の調印式が行われ、丹羽議長、日台友好和歌山市議会議員連盟の遠藤会長はじめ、多くの議員が出席しました。和歌山市議会と高雄市議会は、平成30年に友好交流に関する覚書を締結しており、今回両市が覚書を締結されたことは、本市議会にとっても大変喜ばしいことです。今後も、経済・観光・文化・スポーツ等の分野で交流し、一層両市の発展につながるよう尽力してまいります。



市議会表敬訪問の様子

経済文教委員会 調査活動報告

経済文教委員会では、令和6年11月5日、倉敷市を訪問し、倉敷市企画財政局企画財政部日本遺産推進室から、日本遺産推進室の取組について、概要や今後の展望などの説明を受けました。また、同6日、姫路市中央卸売市場を訪問し、担当課から、中央卸売市場の移転再整備について説明を受けた後、現地視察を行いました。



倉敷市での行政視察の様子

厚生委員会 調査活動報告

厚生委員会では、令和6年11月5日に流山市でこどもの意見表明・参加を促進するこども・若者ボイスプロジェクト及び流山市子どもの生活応援臨時給付金について、同6日に市原市で松ヶ島終末処理場下水汚泥固形燃料化事業について、同7日に三鷹市で在宅医療・介護の推進を目指す三鷹市福祉Laboどんぐり山について調査を行いました。



流山市での行政視察の様子

総務委員会 調査活動報告

総務委員会では、令和6年11月13日に、抜本的な業務見直しを図る熊本市へ「市役所改革」について、自治体向けサービスも展開するLINEヤフーコミュニケーションズ(株)へ「LINEを活用した市民サービスの向上」について、同14日に、オンラインを活用したノンストップ行政の実現を目指す福岡市へ「DX戦略」について、それぞれ視察を行いました。



熊本市での行政視察の様子

建設企業委員会 調査活動報告

建設企業委員会では、令和6年11月13日に小松市を訪問し、スマートシティ推進課から「中山間地域におけるドローンを活用した買物代行サービスの取組」について、概要や今後の展望などの説明を受けました。また、同14日に春日部市を訪問し「首都圏外郭放水路」について、当該施設の技術等の説明を受け、現地視察を行いました。



首都圏外郭放水路の現地視察の様子

広報委員会からのお知らせ

木本小学校の発表会にお邪魔しました!

令和6年11月1日、木本小学校にて、和歌山市の課題について解決策を考えた6年生の発表会があり、広報委員を中心に、議員11名が出席しました。いずれの発表も、子供らしい柔軟な発想でよく考えられた大変すばらしいものでした。和歌山市の未来を担う子供たちが地域の一員として、今後ますます成長することを楽しみにしています。



和歌山市議会広報委員会

- 【委員長】中谷 謙二 【副委員長】堀 良子
 【委員】山野 麻衣子 山路 恭世 清末 博善
 堀 登美子 辻本 太一 林元 光広
 坂口 多美子 永野 裕久

市議会だよりを採点してください!

議会広報アンケート
 実施期間:
 令和7年4月30日
 (水)まで



現在
 ★3.5!!
 ★★★★★
 R6.12月時点



和歌山市議会ホームページ
<http://www.city.wakayama.wakayama.jp/gikai/>

地球環境保護のために、再生紙及び植物油インキを使用しています。

